

山形の山岳 データ要覧 の作成を

五百沢 智也

建設省国土地理院は、1989年9月3日の第一回測量の日を記念して、技術資料c・1-168「日本の山岳標高」（第一次中間報告）を発表した。

これは、これまで、なにげなく取り扱ってきた、日本の山とその標高について、きちんと意識した取り扱いかたで対処しようとかんがえた国土地理院の第一段階の仕事とその成果である。

やま



J・A・C

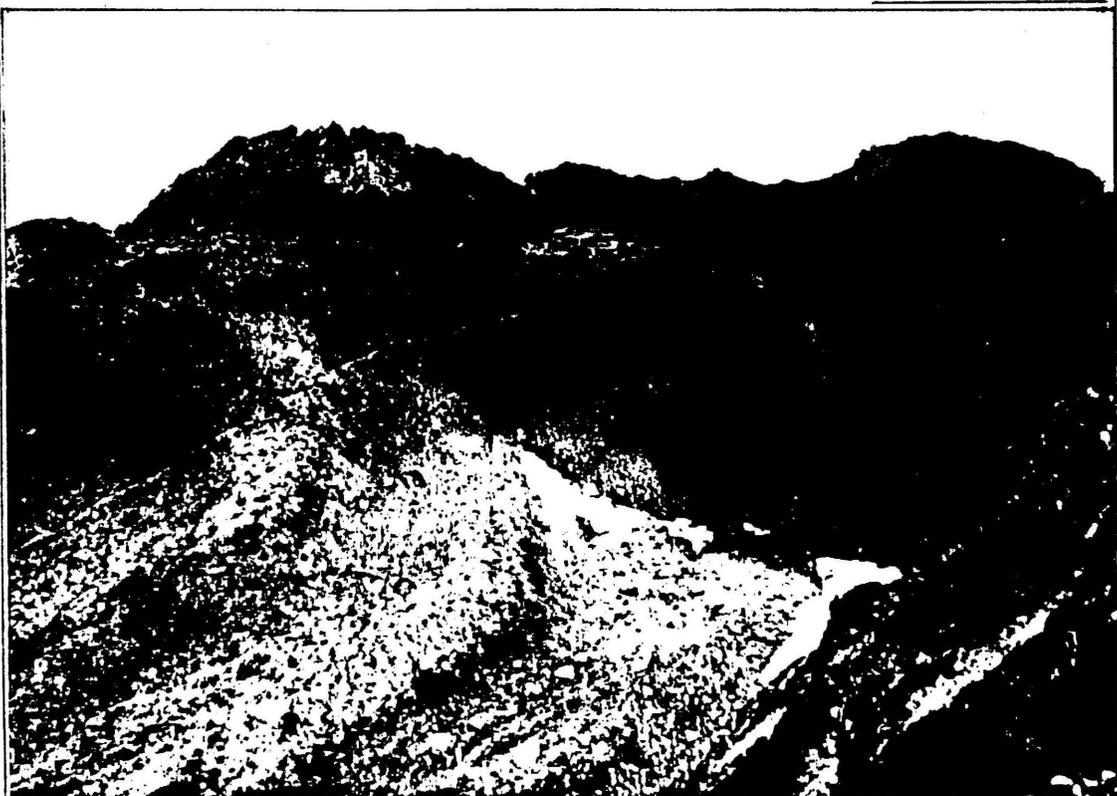
第 2 号

平成元年10月

日本山岳会山形支部

事務局長 藤澤 博

事務所：山形市青町1の13
城北女子高 副地産部内



鳥海山新山（左） 七高山（右） 撮影・木村喜代志

わたくしたちが、日本各地の山山について、これまで、その名称や標高、高さの順番などをなにごとでも知り、何で認めてきたであろうか。

恐らく、学校の地図帳、辞書、教科書、山日記、理科年表、など、いわゆる「ものの本」であることが大半であるだろう。もし、くわしく調べる段になったとしたら、20万分1地勢図や5万分1地形図を取り出し、頂上をとりまく等高線の高さを読みとったり、頂上付近の三角点や標高点の数値を読んだりして、納得、ということになるだろう。

しかし、この際、厳密に、山、頂上、その標高を意識した場合には、山は地表面の大きく高く盛り上がったところだから、その頂上は、地表面の最高点であり、植物や建物、人工的ケルン、標柱などを除外して考えることになり、標高は、日本では測量法で定められた東京湾の平均海面をゼロとした、その地表面最高地点との鉛直線の距離ということになる。

ところが、「ものの本」には、そうした厳密な意味の山頂や標高は考えられていないデータが示されているのである。

三角点や標高点が、山頂部にある山は、すべてその数値がそのまま利用されているし、等高線しかない山頂では、その最高の等高線数値がそのまま利用されているのである。

これではいけないのである。

本気になって、山に登り、その山頂のどこに最高点があるかを調査し、次に、最寄りの基準点から、その最高点の標高を求め、山毎に、山頂の位置と高さを一つずつ決定する必要がある。国土地理院は、全国の山頂調査はできそうにもないと言っているので、あてにはできない。前述の第一次中間報告は、全国の標高2500メートル以上の山について、実施したものであり、今後、2-3年は調査を継続するようであるが、第一次が、「156山」にすぎないので、全国で約2万山ある対象の数から考えるととても無理な話である。

国土地理院の「日本の山岳標高」の表は、「山名」をふり仮名付きであげ、その標高の順位（富士山1番、2番白根北岳、3番奥穂高、4番白根間の岳・・・）、その山にふくまれる最高峰でないピークの

名と標高、山の所属する山脈、メートル位までの標高、地理的位置（経度、緯度で一秒単位まで表示）、表示されている2万5千分の1地形図の図名、山の入る都道府県名、三角点などがある山では、その点名と等級、山名が、現地の市町村役場の公称名で示されているので、古くから使われている他の名称があれば、それを示す備考欄、で構成されている。

平成2年度に国土地理院が発表を考えているのは、各府県の高い方から10位までの山とか（そうすると470山になる）いったものらしい。山形県でいうと、鳥海山、吾妻山、飯豊山、月山、しか入らない。飯豊山の北股、鳥帽子、お西岳、吾妻山の西大嶺、中大嶺、東大嶺などがそれぞれ一つの山として入っているからである。

こんなリストでは、ものの役に立たない。

山名についても、その由米、異説、細かな地名で文化遺産として保存すべきものなどこの際記録しておきたいものである。そうした、山形の山岳について、山名、山容、山の範囲、山脈名、連峰名、最高点の位置、詳しい標高などを記載した「山形の山岳データ要覧」を作るとは、私ども山形支部のメンバーにとって、天から与えられた大事業であり、それを作ることが、山形の山山への私共の恩返しでもある

鳥海山新山の標高2236メートルは、第一次中間報告に付された、各府県の最高地点の表に示されたものだ。これは、1988年夏、測地部職員が現地観測の結果得た三角測量と同精度のものだ。旧図の写真測量の2233標高点の南東20メートルの地点である。



蔵王より雁戸山

自然界と 人間界の圧力

木村 喜代志

1975年7月末から2ヶ月間のインド行きは、驚きと考えさせられ
どうしの日々であった。あれからかなりの月日が過ぎた今日でも、鮮明
に思い出され、思わず考え込んでしまうものの一つに、自然界と人間界
から受けた圧力がある。夢にまで見た憧憬の氷河。今、その 氷の上を



山靴で踏みしめている。その確かな音に軽い興奮を覚えていた。標高
4500m。しかし、その上部に懸かる氷瀑の登りで、突然襲ってき
た眠気、吐き気、頭痛等等の高山病に、必死に耐えている哀れな自分
を見た。二日間の苦しみした後、設営したベースキャンプは小さな三張
りのテントだ。テントの薄い布地は、自然界と人間界とを遮断する唯
一のものであった。翌日、紺碧の空のしたに氷と岩と雪のヒマラヤの
山々があった。シェルパと隊員は、目指す山を求めてテントから遠ざ
かり、やがて自然界へと吸い込まれていった。独りぼっちのテントで
、やっと自分の時間を持てるようになったとき、例えようのない「何
か」を感じた。テントから顔を出してみても、何の変化も無い。テン
トの内とて同じである。しかし、「何か」を意識せざるを得ない状態

だった。岩塊に腰を落ちつけ、あまりにも美しすぎる山々を見ていた時、ふと東北の山々を思い出した。東北の冬山も厳しく、美しい。しかし、主稜に狐の足跡があったり、こちこちに凍りながらじっと春を待つ植物があったりで、自分達のほかに命あるものに触れることができる。ところが、ここには氷と岩の外に何があるだろうか。

温もりを感じさせるものは何一つ無い。これでは自分だけが異分子ではないか。これでは、この地にとどまること自体が、身構えなければ出来ることではないのではないか。この気圧の低い5000メートルの地で、自然界の圧力はますます強く感じられた。それだけに、偵察から帰ってくる隊員・シェルパの姿を見たとき、仲間としてのほかに、動物としての仲間としてほっとした一面があった。もう一つの圧力は、南インドへの出発点でもあったボンベイでの経験である。重厚な欧風建築ばかりで、ビクトリア王朝時代のゴシックスタイルの美しい町並みであった。しかし、オールドボンベイのクロフォードマーケットに足を踏み入れたときにみたものは地獄絵にも似たものであった。人糞の点在する路上。うつろな目で母親に水を飲ませてもらう子供。両手足を失い寝たまま恵みを乞う老人。この老人にけたたましくクラクションを鳴らす脂ぎったインド人の乗る車。客の食べ終わる皿を狙って駆け寄り、ひとなでした手をなめる子供。ビヤ樽のようなおなかで、骨と皮だけの手足で者を乞う子供。路傍にころがっている人人人。

寝ているのではなく、動けないのだろう。目・鼻・口といわず蠅の羽で銀色に光っている顔もある。人の波に埋まったバザールの喧騒。この一角から「女王のネックレス」の名を持つマリンドライブに抜け出たときは、思わずため息が漏れた。体がゴム風船のように膨らむ思いだった。これまでに、これほどの人間の圧力を感じた事があつたらうか。バック湾から吹き寄せる潮風に身を浴したとき、腰が崩れてしまい、しばらく動くことができなかった。とにかく「人間愛」「道德観念」「社会通念」などなど「これだけは・・・」と自分で持っていた人間社会の基準のようなものが全く通用しない。それどころか、下手に持ち続けるなら苦しみ、発狂するのではないかとすら思えてき

た。そうかといって、こういう情景に何日間も接しておれば、感覚が麻痺し、胸の傷みも感じなくなるのだろうか。これもまた自分にとって底知れぬ恐ろしいものだ。一体、生きるとは何か、生きて何をするのが人間なのだろうか。動物と違う人間の生き方とは何だろうか。極限に近い二つの異なったものから受けた圧力を、今あれこれ考えてみるとまたまたもんもんとしてくる。しかし、大自然の中ではヒトのひ弱さをまざまざと見せつけられたような気がしている。

新緑の翁山を尋ねて

阿部 勇作

JAC山形支部に事務局ができて第一回山行を、6月11日尾花沢市北東部に位置する伝説と由来を秘めた翁山を選んだ。

当日参加者は尾花沢市立高橋小学校前に集合、三台の車に分乗して翁山を目指す。当日は山開きと重なり地元の登山者も多く、狭い林道では車の行き違いもままならぬひとコマもあった。翁山に連なる黒倉山と吹越山を見渡せるくるみ平のハリマ小屋前には地元の人達の車でいっぱいであった。



植林された杉の木立を通り過ぎ、手つかずの美しいおなの原生林の中を登るとやがて灌木地帯となり周囲が開らけてきた。キヤラの古木が地をはうように横たわり、標高1,075メートルの頂上にはキヤラ木に囲まれた所に赤い鳥居の奥にブロックで造られた小さなほこらが鎮座していた。山開きとあってほこらの扉は開かれ、翁山信仰がいまなを地元の人達に受け継がれていることが伺い知ることができました。

頂上からは奥羽山系の山並みが指呼の中に眺望され楽しい昼食の一時を過ごす。

下山路は黒倉山から吹越山へ通ずる県境稜線黒倉山鞍部から斜め一直線に下る回遊道路を歩く、幅広い草原には季節の花も咲き始め夏の到来をまっていた。急坂を下りクルミ平の台地に着くと、そこには段丘の清水がいたるところから湧いていた。

再びハリマ小屋にたどり着くと広場では地元の人達が焚火を囲んで近くの小川でとれたヤマメを串刺しにして焼いていた。

好天に恵まれた山行きも無事終わり再び車で高橋小学校前までもど名残りを惜しみながら解散した。

JAC山形支部主催

森吉山に登ってみませんか？



期 日：平成元年10月14日（土）～15日（日）
や ま 森吉山（秋田県森吉町・阿仁町）

1:50,000地形図：森吉山・大葛

コース：14日 森吉町湯の岱「森吉山荘」前
12時集合～太平湖～小又峡～
「こめつが山荘」（泊）

15日 松倉コース～頂上～一ノ腰コ
ース～「こめつが山荘」解散

会 費：4,000 円位（山荘利用料、食料代）

申込み：10月10日までつきへ

梅津博（山形市小白川町4-17-11）

☎昼 0236-72-1600 夜 32-5827

阿部勇作（酒田市栄5-24）

☎夜 0234-22-9578

携行品：寝袋又は毛布、（食事は共同炊事）

その他：往復は、自家用車が便利です。車の都合のつかない方は、申込みの時にその旨を、

会員通信



今年は例年になく暑い日が続いて雨も降らず水不足が心配されています。先日は「やま」の第一号をいただきありがたく拝見いたし船形山登山集会等々の記事を見、参上して皆さんと山の話し等交わしたらさぞ楽しいことだろうと存じましたが何しろ思うようにならない年令になって耳は遠くなりさびしく存じてます。夏山登山の好時折も郊外散歩やら山に関する本を読んだりの日常になりましたのですが、大雪山、木曾駒ヶ岳等々のロープウエーで引き上げてくれる山を探して楽しみにしています。 近況まで、90歳になりました。石井貞吉

最低週に一度は山に登るようにしていますが、体力の衰えを嘆くことしきりです。7月15日、鶴岡致道博物館で行われた風見武秀写真展で、10数年ぶり、石井貞吉さんのお元気な姿に接し、まだまだ弱音を吐いている年令ではないと、大いに励まされました。山の後輩や教え子に尻をたたかれて、1,700余回の山行をまとめる作業に、やっと重い腰をあげたところです。 池田昭二

北海道東部の羅臼岳斜里岳雌阿寒岳に登りました。羅臼は山頂まで 1、5 km の地点で雪溪とガスで断念下山。斜里岳は上り沢コース、下り能見峠コース、山頂は強風で立っていただけず遠う。カメラも出せない。雌阿寒岳は野中温泉よりのぼる。こちらにも風とガスあり、ガスの切れ間にみる周囲は広大、早々に阿寒湖コースを下山。林道長し。三山とも単独行。羅臼では誰とも会わず、熊の糞あり。シーズンなのに登山者の少ないのに驚く。89・7・30 佐藤節子



山を歩き始めて 40 年になる。昭和 39 年、私も日本百名山に出会い、“山に寄せる深い思い出”の文章に、すっかり憑かれ、以来、深田百名山巡礼をつづけている一人である。満天の星を仰ぎ、独標でビバークして登った槍ヶ岳、犬と道ずれになり十文字峠から梓山まで歩いた甲武信岳。岩を抱き、ひざを借りて、そして登った剣岳。花に酔い、酒にも酔った大雪山。などなど地球は人間のために、あるように錯覚してしまいそんな日々の生活、山を歩きながらしみじみ思うこの頃である。人間も草も木も鳥も、同じく大自然の中に、本当は生かされているのだと。良き山の友にもめぐまれ、私の百名山も既に 96 座になっている。いつの頃からか、最後の山は、深田久弥の故郷の山荒島岳にしようと思っている。 斎藤慶子





ワシントン・ロック・ウォッチング

ジャンボジェットからカナディアンロッキイを見下ろし、ワシントン滞在中、ぜひその一角に足を踏み入りたいと念じていたものの、日程から無理な相談ではあった。

代りに会議の半日をさいて、幅 1 km ほどの緑地帯に散在しているそれぞれ個性的な石造りの公共施設をみてまわった。砂岩から造られている国会議事堂を皮切りに、ポトマック川沿いのリンカーン記念塔までのおよそ 15 km を完歩するつもりであったが、冷夏ぎみの山形から一気に真夏日のつづくワシントンに来てしまったので、途中でギブアップ、石造りの塔として世界一高いといわれる大理石のワシントン記念塔も登らずじまいとなった。

途中、国立美術館で一息入れたが、色合い、肌合いのさまざまな大理石と木材の木目を生かした館内はさすがであった。館内のラウンジで食べたスイカも甘かった。

田 宮 良 一

六月に面白山の紅葉川に入った。

クラス会の仲間四人が、トンネル入口の藤の花山荘に集い、初日は青嵐に染まった滝周辺を散策して足慣らしをした上で、翌る日、沢の下半を歩いた。

あたかも強風豪雨に見舞われて、紅葉川の滝という滝は普段の倍以上の水量で激しく跳ね、滝壺を沸き返らせていた。

この狭い谷に突然、竜が数頭現れて暴れているかのようであった。

悪天候でついに予定コースを縮めて山荘に戻ったが、躍動する溪谷から、われわれ老兵たちは何となく生きのいい活力を胸のうちに投げこまれたような気分を味わって帰路についた。

水辺の細い径に山椒の匂いが漂っている日だった。大 橋 克 也

いつも御連絡を有り難うございます。

小生、病院の業務と薬剤師会の所用に追われ、先日の総会に出席できず、真に申し訳ございません。船形山行も魅力あるプランでしたが参加できず、秋の大山にも、研修会がぶつかり、残念の連続です。「やま」の発刊は、このように、やまにも思うように行けず、皆さんとなかなかお会い出来ないものにとって、とても心の糧となる（たより）です。編集の方々に感謝しております。

大橋 克也

事務局だより

(1) 山形支部40周年記念行事

期 日 平成2年6月9日
場 所 鶴岡市



(2) 年次晩餐会(忘年会)

期 日 平成元年12月9日(土)
場 所 蔵王温泉「とどまつヒュッテ」
集 合 「とどまつヒュッテ」 16時
申し込 葉書または電話で
山形地区・・・・・・菊 地
庄内地区・・・・・・阿 部
当日は山形集会について話し合う
予定です。スキーもできます。

(3) 平成2年度全国支部懇談会山形集会

日本山岳会「'90・蔵王の集い」(山形支部40周年)

期 日 平成2年9月15日・16日(土・日)
場 所 蔵王樹氷原 「とどまつヒュッテ」
詳細は追ってお知らせします。

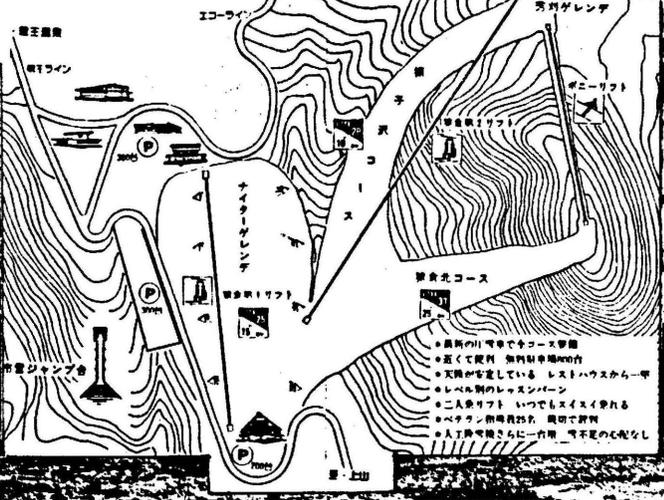
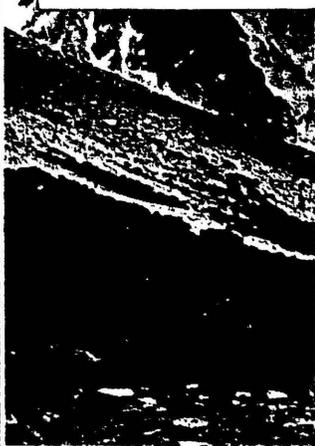
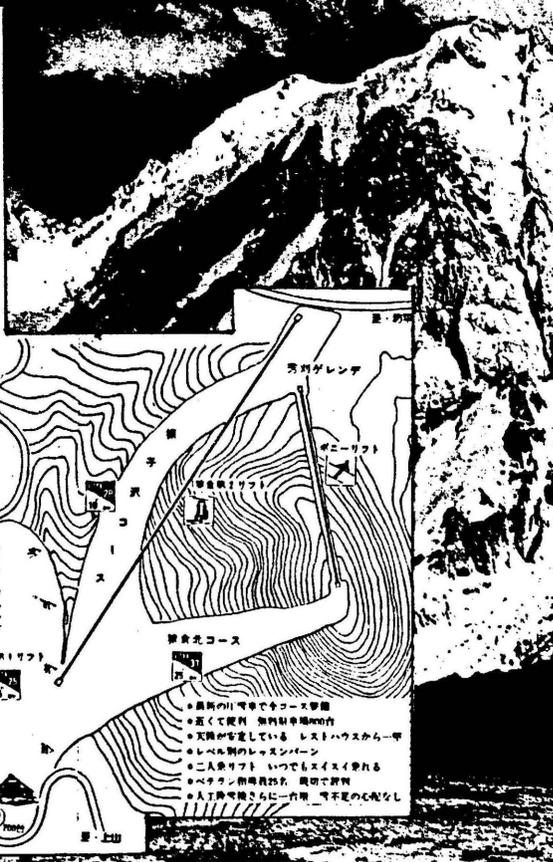
(4)会員各位より沢山の原稿やお便りを頂きました、心からお礼申し上げます。

支部会報「やま」は山を愛する方々の交流の一つの「場」として存続させたいと思っています。葉書で近況をお知らせください。

(5)第2号から横書きで、大きな活字になりました。第1号には会員各位より暖かな御意見をいただきましたが、その中に、活字を大きく、横書きにという希望がありましたので早速この形にしました。ご覧のうえご意見をお寄せ下さい。

新スキー場紹介

安心して滑れるゲレンデとして家族連れに人気のある坊平猿倉スキー場に新コースが開拓され、500メートルのリフト工事が着工した。振り沢コースと命名され、熊野岳から猿倉ゲレンデまで夢の長大スキー場へ大きな一歩を踏み出した。



OUTDOORS EQUIPMENT
KASUKAWA SPORTS

アロ-カスカワ

〒990 山形市十日町2丁目2番57号 ☎0236-42-0020
PM 36

ゴト-の

登山靴



電話 (山形) 22-3978